

目次

目次	1
1.1 はじめに	3
1.2 当マニュアルの特長	4
1.3 準備しておく工具	5
2 章 梱包の内容	6
2.1 梱包内容	6
2.2 付属品	7
2.3 仕様の詳細	8
3 章 組立の開始	10
3.1 XC Cubeの機能	10
3.2 組み立ての開始	11
3.3 CPUファン、ハードディスク、フロッピードライブ、DVD-RW デバイス	11
3.3.1 CPUファンの取り出し	11
3.3.2 ハードディスクの取り付け	14
3.3.3 フロッピードライブのインストール	14
3.3.4 DVD-RWドライブの取り付け	14
3.4 ケーブルとコネクタ	15
3.5 CPU、CPUファン、CPUファンコネクタの取り付け	17
3.6 DIMMソケットへのDRAMの搭載	19
3.7 AGPカードやPCIカードのマザーボードへの取り付け	20
3.8 ドライブケースのシャーシへの取り付け	21
3.9 取り付けの完了	22

3.10 外部にある周辺装置の説明 23

4 章 電源を入れる 27

付録 32

1.1 はじめに

AOpen による特別設計の XC Cube をお買い上げいただき、誠にありがとうございます。このベアシステムは、ユーザー皆様の個々のニーズに応えられるよう、当社の強力な工業設計能力および全製品の品質向上追求の精神から設計されました。

このマニュアルは、DIY でコンピュータを組立てたい方のために用意されました。言い換えると、これは初心者ユーザーのためのマニュアルです。すでに経験のあるベテランの方には、このマニュアルは不要かもしれません。初心者の方々がステップを追ってご自分のコンピュータを組立てられることが目的です。

それでは、ユーザーフレンドリーなマニュアルをご覧になり、**AOpen** XC Cube の提供するパワフルな機能を個人的に経験なさるようご招待いたします。

Adobe のロゴ、Acrobat は Adobe Systems Inc. の商標です。

AMD のロゴ、Athlon および Duron は Advanced Micro Devices, Inc. の商標です。

Intel のロゴ、Intel Celeron, PentiumII, PentiumIII は Intel Corporation. の商標です。

nVidia のロゴは nVidia Corporation の登録商標です。

Microsoft、Windows のロゴは、米国または他国の Microsoft Corporation の登録商標および商標です。

このマニュアル中の製品およびブランド名は全て、識別を目的とするために使用されており、各社の登録商標です。

このマニュアル中の製品仕様および情報は事前の通知なしに変更されることがあります。この出版物の改訂、必要な変更をする権限は AOpen にあります。製品およびソフトウェアを含めた、このマニュアルでの誤りや不正確な記述については AOpen は責任を負いかねます。

この出版物は著作権法により保護されています。全権留保。




AOpen Corp. の書面による許可がない限り、この文書の一部をいかなる形式や方法でも、データベースや記憶装置への記憶などでも複製はできません。

1996-2003 Copyrights, AOpen Ltd. All rights reserved.




<http://xc.aopen.com.tw>

1.2 当マニュアルの特長

このマニュアルでは以下の各方法を学びます。

-  自分用のコンピュータのセットアップ
-  各装置の適切で安全な組み上げ、ハードウェアに関する知識
-  作業を簡単に行うための実的なテクニック

一方、以下の内容は当マニュアルには含まれていません。

-  オーバークロックなどの裏技的な使用方法
-  難解な各種ハードウェア規格
-  長々とした架空の物語や漠然とした理論

このマニュアルではカラフルな挿絵と共に、簡潔な表現でわかりやすい説明で記載しています。重要な箇所では、以下のマークが出てくる場合があります。



組立ての過程で知っておくべき情報や、助けとなるヒントが記されています。



このマークを見つけたら特に注意してください。組み立ての途中で起こしやすい間違いや、注意事項が説明されています。



この矢印は加える力の方向や、正しい組み立て方向を示しています。

1.3 準備しておく工具

職人は良い仕事をするため、自分の道具をまず研ぎ澄まします。組立て時にいくつかの工具は欠かせません。

まず、大部分の内部コンポーネントの固定にはプラスドライバーが頻繁に使用されます。適切なドライバーを使用することによって必要な作業をより容易に行えます。そのためには、どのようなドライバーが適しているでしょうか？ 先端が磁気処理されているものがお勧めです。それは、次の理由によります。コンピュータ組み立て時には、ケース内部にネジを誤って落としてしまうことがよくあります。この場合、手の届きにくい場所でもマグネチックドライバーなら落ちたネジを容易に拾うことができます。ネジ穴には手の届きにくい場所に位置するものもあります。この場合にもマグネチックドライバーが必要です。さらに、工具のサイズも考慮すべき点です。一般には、**家庭用の 107 型プラスドライバー**が最も適したタイプといえます。

これで準備よし!!



組み立て時にはジャンパー設定が必要となります。たいていの場合は素手でできます。でも問題を直すのに手が届かないことがあるものです。ラジオペンチがあれば、ジャンパー 1 個の設定で悩むことはなくなるでしょう。



ジャンパーとは？

ジャンパーとは、FSB（フロントサイドバス）クロックレシオやサウンドスイッチなどの設定用回路のピンを差すことで調節する「ジャンパーピン」のことを指します。

2 章 梱包の内容

2.1 梱包内容

XC Cube のパッケージを開けると、下記のコンポーネントが入っています。

XC Cube ケース/ドライブケース

マザーボード

電源装置

CPU クーラー



オールインワン



ドライブケース



電源ユニット / XC Cube ケース



CPU クーラー
(EZ65)



マザーボード

[UX4SG-1394 (EZ65) / UK79G-1394 (EZ18)]

2.2 付属品

主要なコンポーネント以外に、以下の付属品が入っています。

固定用ネジ: 付属品の包装を開けると、以下の4種類のネジが入っています。



この写真のように、**1番ネジ**のネジ山間隔は広く、六角形の頭を持っています。



この写真のように、**3番ネジ**のネジ山間隔は同様に広いですが、頭は丸いです。



この写真のように、**2番ネジ**のネジ山間隔は狭く、頭にはリングが付いています。



この写真のように、**4番ネジ**のネジ山間隔は同様に広いですが、頭は平たいです。

IDE ケーブル: 80 ピンコネクタで、ハードディスクを IDE インタフェースに接続します。



80 ピンハードディスクコネクタ



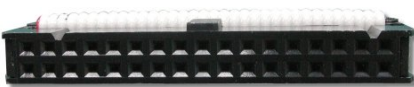
IDE ケーブル: 80 ピンコネクタで、DVD-RW を IDE インタフェースに接続します。



80 ピン DVD-RW コネクタ



フロッピードライブケーブル: 34 ピンコネクタでフロッピードライブに接続します。



34 ピンコネクタ



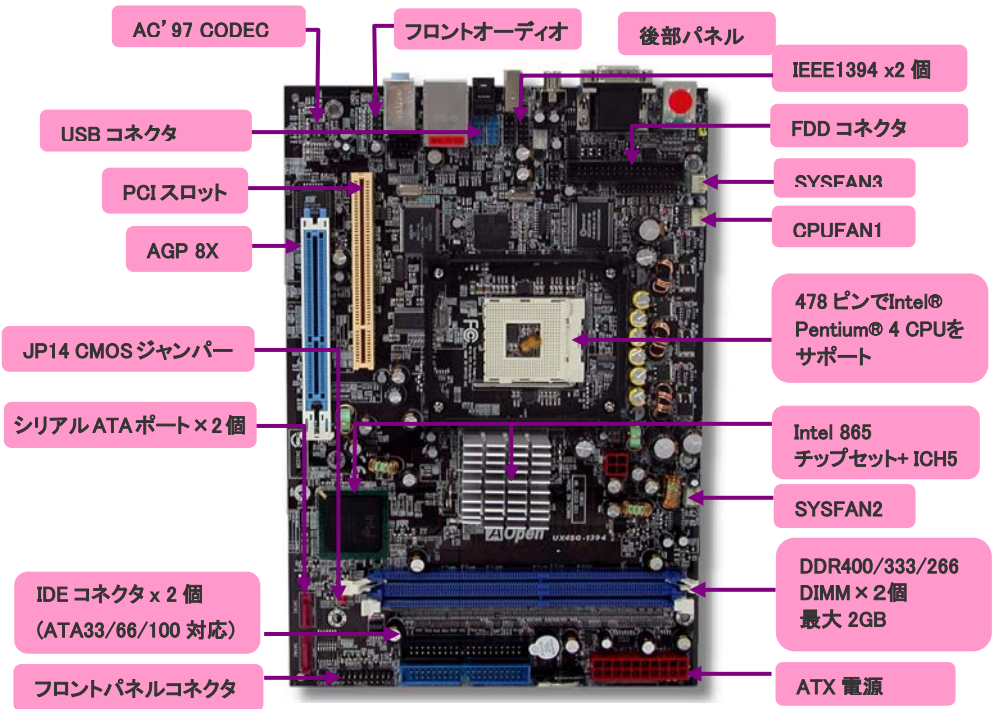
2.3 仕様の詳細

XC Cube にはユーザーの選択が可能な 2 種類のマザーボードタイプがあります。ここで 2 種類のマザーボードの仕様を見てみましょう。

Intel 系の CPU を使用される方には **UX4SG-1394** が用意されています。

マザーボードの詳細な仕様については**付録**の章をご参照ください。

UX4SG-1394

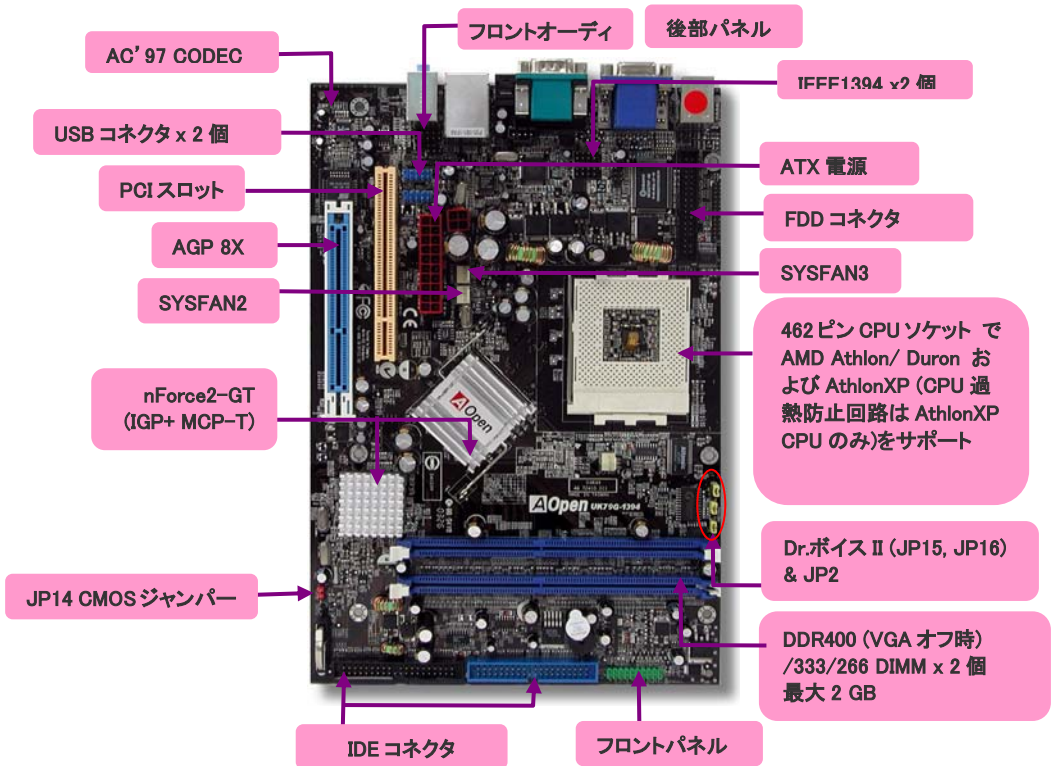


メモ : Intel 865G チップセットは Willamette や Celeron (0.18u) プロセッサをサポートしていません。Northwood プロセッサはクロックレシオを自動検出するので、BIOS でのマニュアル設定は不可能です。

AMD 系の CPU を使用される方ユーザーの皆様には、**UK79G-1394** が用意されています。

マザーボードの詳細な仕様については**付録**の章をご参照ください。

UK79G-1394



3 章 組み立ての開始

3.1 XC Cube の機能

AOpen XC Cube はミニ PC として設計され、多くの利点を備えています。従来の PC のデザインとは異なり、個人のテイストをそれぞれのカラーパネルで演出可能なエレガント設計です。そのユニークな外見に加え、AOpen XC Cube は家の中での移動が容易でリビングの装飾にもマッチします。軽量で小気味良いデザインは確かに PC の選択肢の一つです。

個人のスタイルとテイストを反映するユニークなデザイン！

気分に合わせてカラーパネルを交換！

コンパクト設計でリビングやベッドルームに設置可能

サイレント技術で、夜中でも静か

PC 組立初心者でも簡単な組み立て

小型 PC ケースでスペースを約 60%節約

エッジ丸め構造で手にやさしく、組み立て時に 100%安全を確保

高効率電源装置により円滑なコンピュータ動作に必要な電力を供給

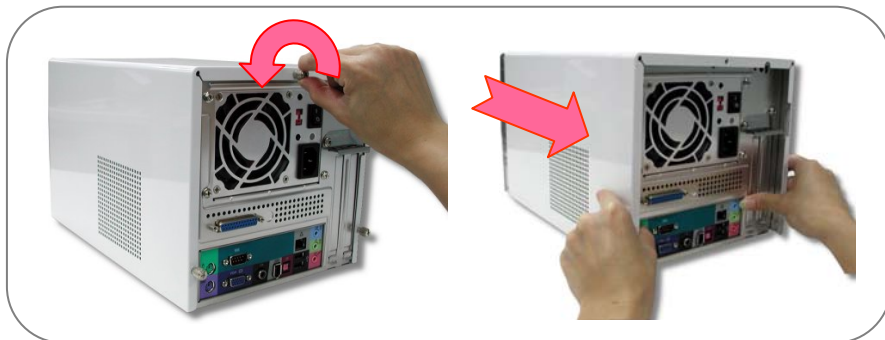
FCC ClassB/DoC および CE 規格準拠による健康の保護

高効率のマザーボードによる、容易なタスク処理

ローエンド規格の場合、オプションで AGP/PCI インタフェースを購入することで、より弾力的な機能追加が可能

3.2 組み立ての開始

1. ケースのネジを外します。親指で本体を押してケースを移動させます。



2. ケースを上方向に外します。これで本体内部が見えます。

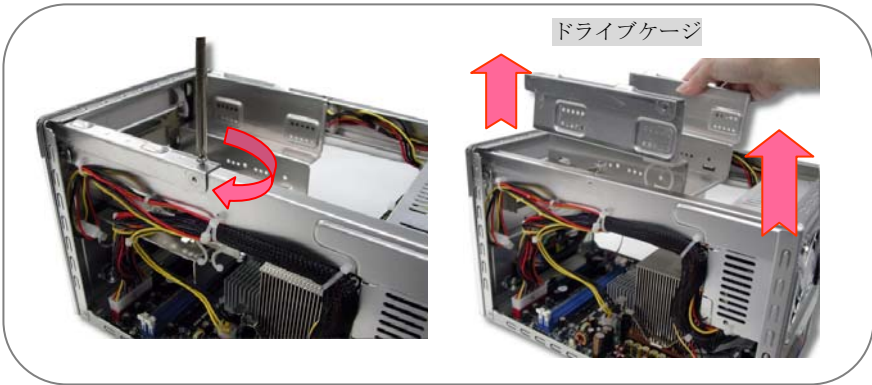


3.3 CPU ファン、ハードディスク、フロッピードライブ、DVD-RW デバイス

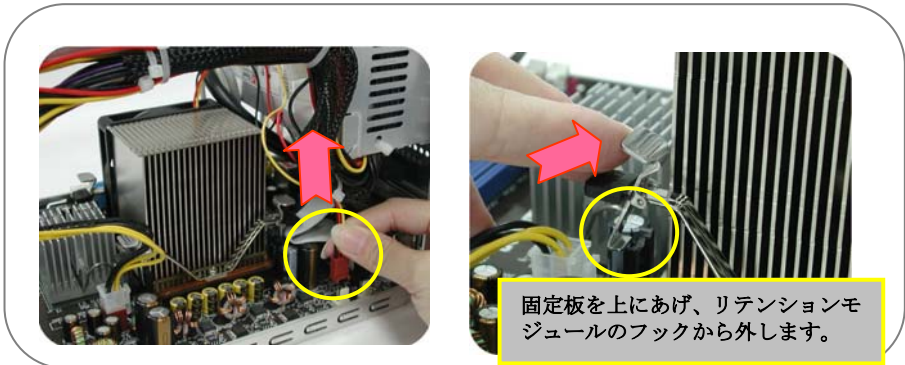
3.3.1 CPU ファンの取り出し

ハードディスク、フロッピードライブおよび DVD-RW ドライブを XC Cube シャーシに取り付ける前にクーラーを取り外します。

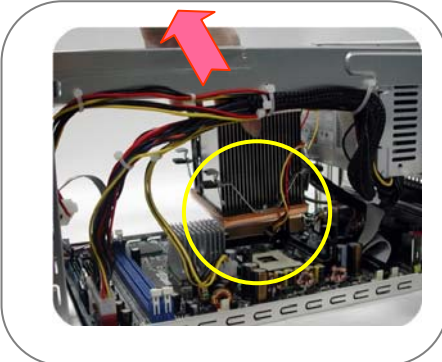
1. シャーシからネジを外し、ドライブケースを取り外します。



2. **EZ65 XC Cube** の場合、AOpen 製 CPU ファンを外す前に、コネクタを外してください。それから CPU ファンを外します。

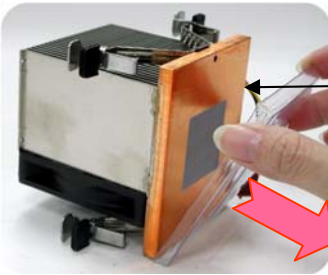


CPU ファンをシャーシから取り出します。後からの使用のため、近くに置いておきます。



AOpen 製を使用するのはなぜ？

放熱テストと確認検査によりこのタイプの AOpen 製 CPU ファンが XC Cube に採用されています。最適なエアフローと放熱効果が XC Cube システム用に考慮されています。他社ブランドの CPU ファンのご使用はお勧めできません。



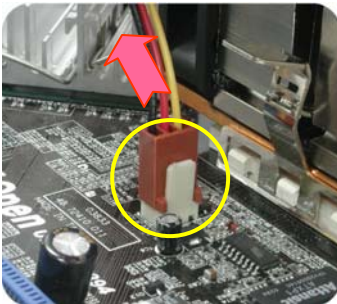
CPU ファンの底部は出荷時にはプラスチックカバーが付いています。
CPU ファンを CPU に取り付ける際は取り外してください。



方向はどの向き？

間違った方向のデバイスのインストールはトラブルの原因です。図にある FRONT マークにご注意ください。

3. **EZ18 XC Cube** の場合、AOpen 製 CPU ファンを外す前に、コネクタを外してください。それから CPU ファンを外します。



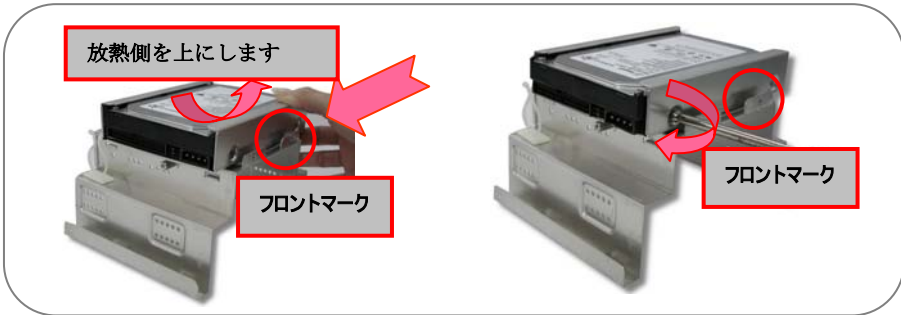
固定ロックを外すにはドライバーを使います。

シャーシから CPU ファンを取り出します。後からの使用のため、近くに置いておきます。



3.3.2 ハードディスクの取り付け

CPU ファンを取り出したら、**ドライブケース**の取り付けに取りかかります。ハードディスクをドライブケースにスライドさせて取り付け、3番ネジで固定します。



3.3.3 フロッピードライブのインストール

図のようにフロッピードライブをスライドさせて取り付けます。2番ネジで3番と6番ホールに固定します。



3.3.4 DVD-RW ドライブの取り付け

DVD-RW ドライブを図のようにスライドさせて取り付けます。2番ネジでDVD-RW ドライブを固定します。



DVD-RW ドライブはドライブ
ケースの縁に合わせます

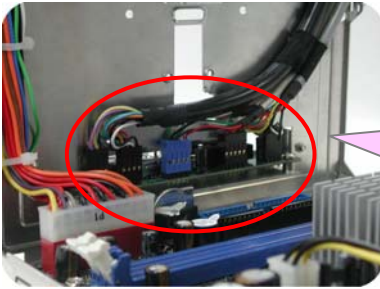


ネジを間違えないで!!

一般には、ハードディスク購入時に箱の中に専用のネジが入っています。これらのネジを使用しても問題はありません。ネジが付属していない場合は付属品パッケージ内のネジを使用します。必ず 2 番ネジを使用してください。(6 ページ参照)

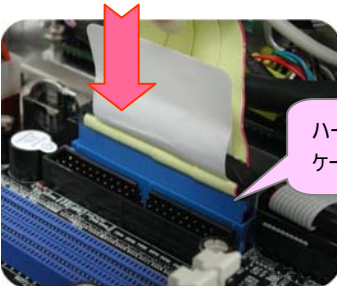
3.4 ケーブルとコネクタ

1. 必要なケーブルとコネクタをマザーボードに接続する際、マザーボードのフロントパネルおよび後部パネルに接続されている I/O パネルコネクタ (IEEE1394, USB, フロントオーディオおよび S/PDIF) が図のように接続されていることを確認します。

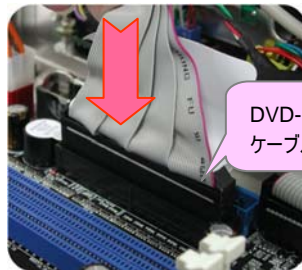


I/O コネクタは前もって設置されています。

2. フロッピーケーブル、ハードディスクおよび DVD-RW ケーブルをマザーボードに接続します。

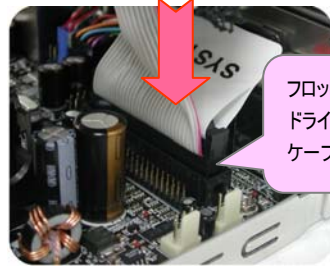
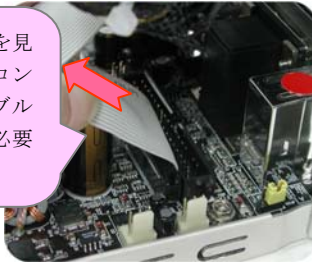


ハードディスク
ケーブル



DVD-RW
ケーブル

FDD コネクタを見
つけるにはフロント
パネルケーブルを横にずらす必要
があります。



フロッピー
ドライブ
ケーブル

3. シリアル ATA ハードディスクをご使用の場合、このマザーボードにはシリアル ATA コネクタも搭載しています。EzColor デザインで、接続するコネクタを容易に判別できます。シリアル ATA ケーブルはシリアル ATA コネクタに注意して取り付けます。



シリアル ATA
ケーブル



シリアル ATA ハードディスクには異なるタイプの電源コネクタが付属していますが、本製品付属のシリアル ATA 電源ケーブルでハードディスクと接続してください。



電源
コネクタ

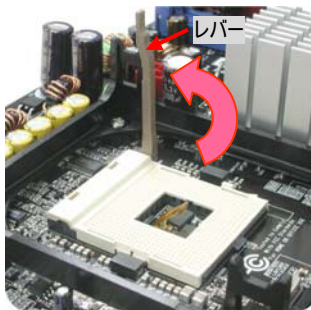
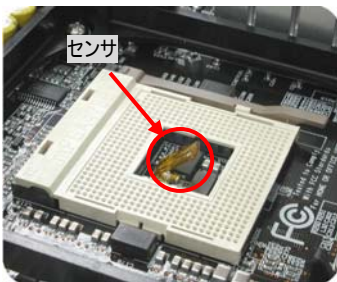


1 番ピンはどこに？

IDE ケーブルを接続する際は、IDE ケーブルの赤い線の側をマザーボードの矢印側に合わせます。それでもはっきりしない場合はマザーボードのマニュアルをご参照ください。

3.5 CPU、CPU ファン、CPU ファンコネクタの取り付け

1. 図のセンサーを少し上に持ち上げます（出荷時はクーラーが上に載っていて押し込まれている可能性があります）。それから CPU ソケットレバーを引き上げます。



2. CPU を CPU ブラケットに取り付けます。レバーを CPU ソケットに押し戻します。



3. これで完了です。



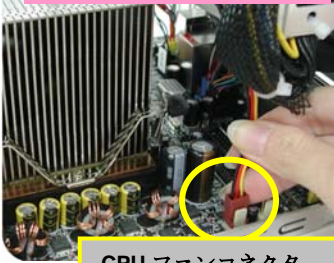
4. **EZ65 XC Cube の場合** CPU ファンを CPU リテンションモジュールの上に取り付けます。



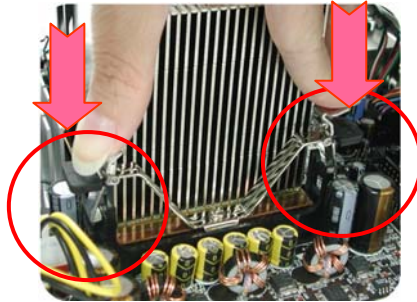
CPU ファンの断面側がこの図のように向くよう取り付けます。

ファンのケーブルはマザーボード上の「CPU FAN」コネクタに接続します。「カチッ」と音がするまで正しい方向で差し込みます。

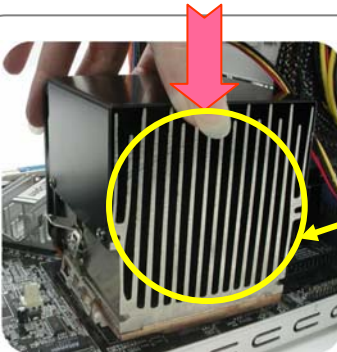
UX4SG-1394 マザーボード



CPU ファンコネクタ



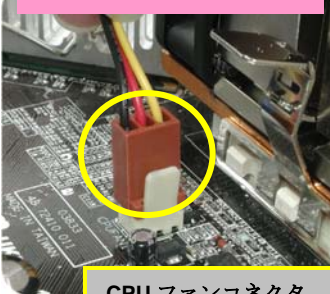
5. **EZ18 XC Cube の場合** CPU ファンを CPU リテンションモジュールの上に取り付けます。



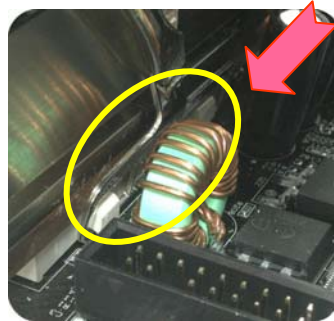
CPU ファンの断面側がこの図のように向くよう取り付けます。

ファンのケーブルはマザーボード上のファンコネクタに接続します。CPU ファンの固定金具を図の様にソケットに正しく固定します。

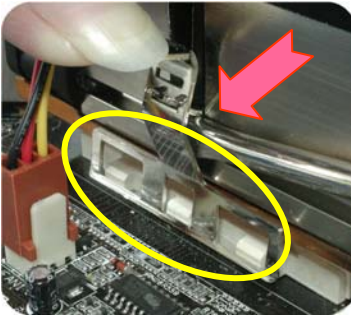
UK79G-1394 マザーボード



CPU ファンコネクタ

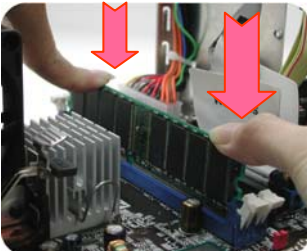


ドライバーを使って、固定金具をソケットにしっかり固定されるまで押し込みます。



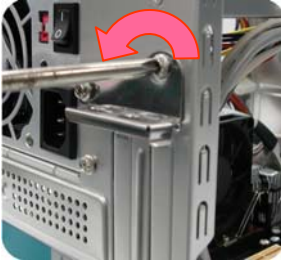
3.6 DIMM ソケットへの DRAM の搭載

DIMM ソケットは、青色で容易に判別できます。メモリモジュールを DIMM ソケットに水平に差しします。.

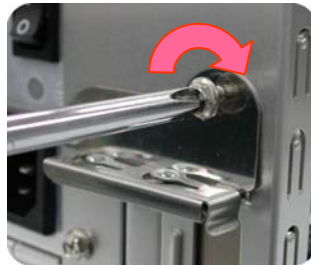
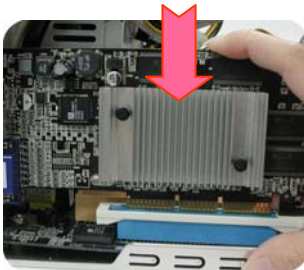


3.7 AGP カードや PCI カードのマザーボードへの取り付け

1. AGP や PCI カードを取り付ける場合は、マザーボード上の AGP スロットと PCI スロットに接続ができます。後部パネルのネジを外し、ブラケットを取り外します。



2. AGP カードをスロットに差し込みます。留め金を AGP スロット部分に固定します。

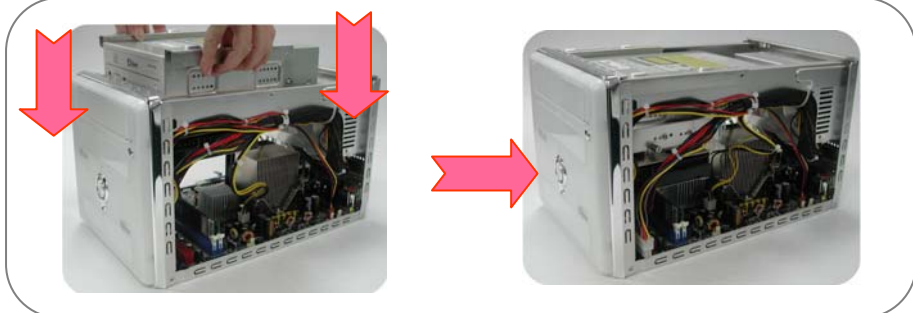


3. これで AGP カードの取り付けは完了です。

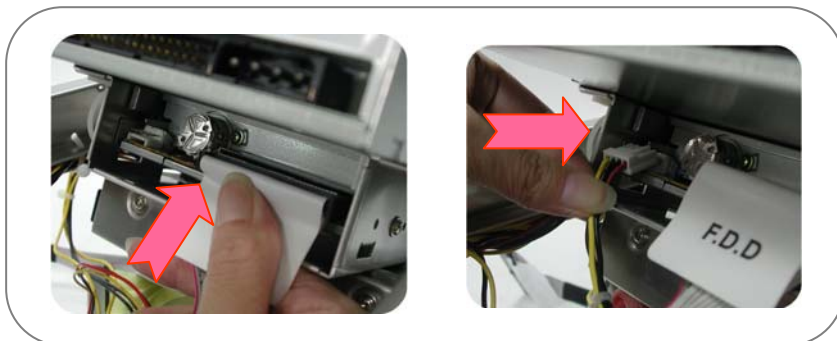


3.8 ドライブページのシャーシへの取り付け

1. ケーブルを取りまとめ、シャーシ上部からドライブページを取り付けます。



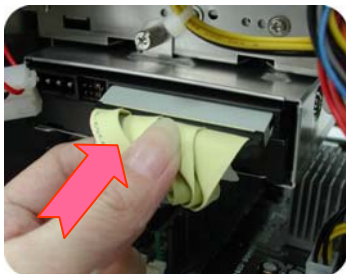
2. DVD-RW およびフロッピードライブの取り付けが便利ようにドライブページを 45 度引き上げます。
フロッピードライブおよび電源ケーブルをドライブページに接続します。



DVD-RW ドライブ/電源ケーブルをドライブページに接続します。



ハードディスクドライブ/電源ケーブルをドライブケースに接続します。



ドライブケースは2番ネジで固定します。



3.9 取り付けの完了

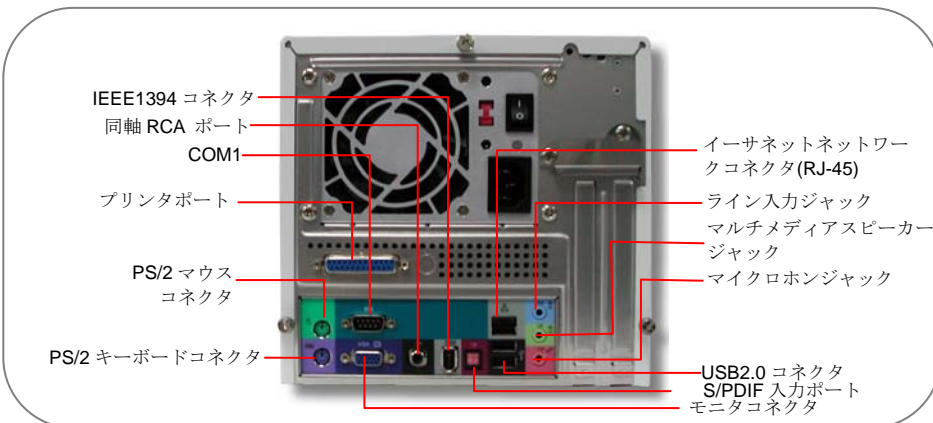
ハウジングをシャーシに戻します。後部ネジを取り付けます。



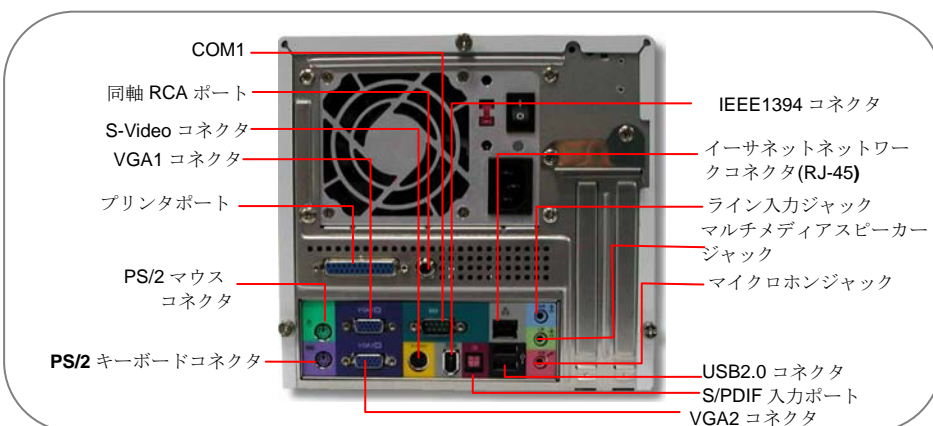
3.10 外部にある周辺装置の説明

1. フロントパネルおよび後部パネルのポートを見てみましょう。

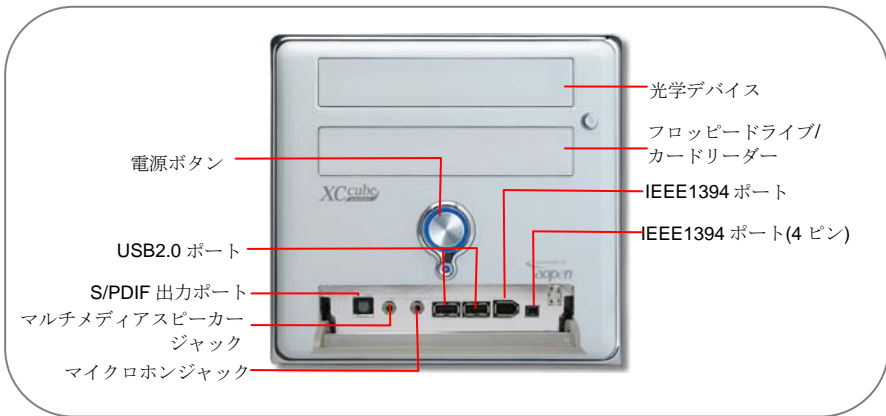
後部パネル – EZ65 XC Cube



後部パネル – EZ18 XC Cube



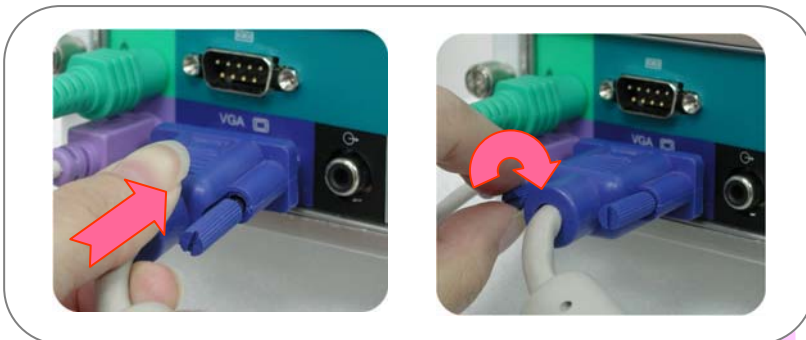
フロントパネル



2. キーボードとマウスを接続します。



3. モニタコネクタを差しネジ止めします。



4. マイクロホン (スピーカーやイヤホンも)および ネットワークケーブルを接続します。

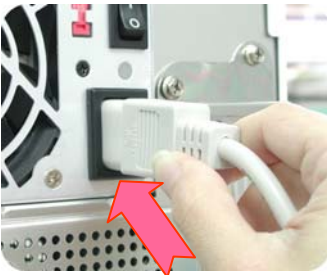


5. 適切な電源電圧 を設定し、電源ケーブルを接続します。

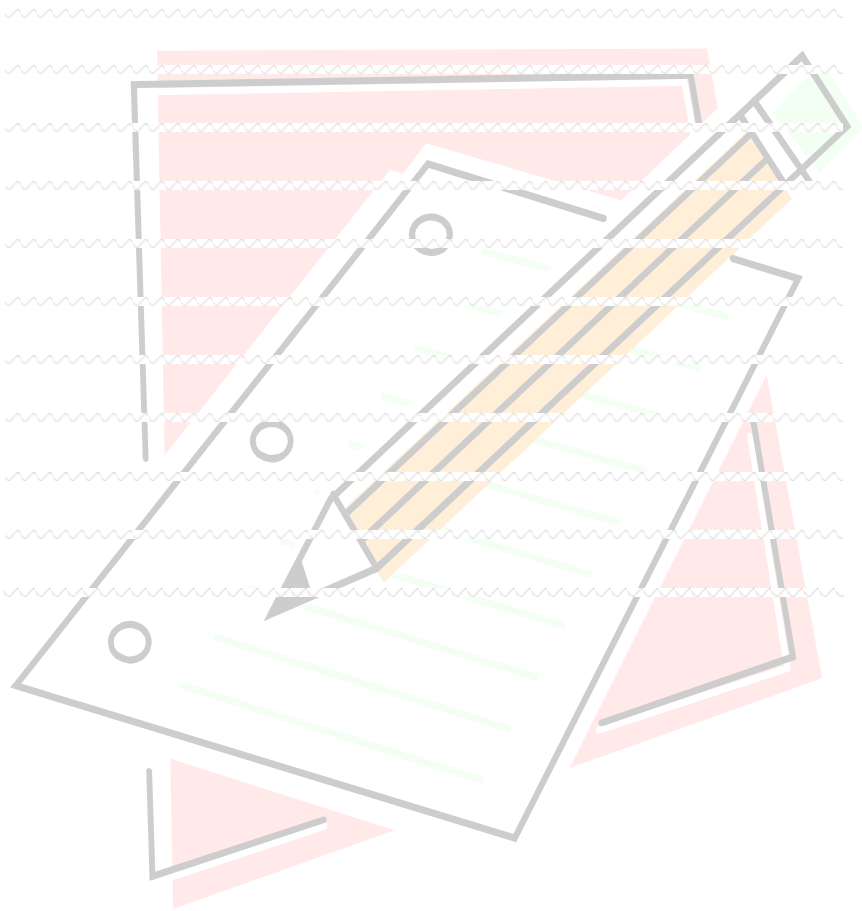
コンセントに供給されている電圧はお住まいの国や地域によって異なります。日本の場合は100V ですので、ここでは 115V に設定いたします。



最後に電源ケーブルを差します。



[Note]



4 章 電源を入れる

1. 電源を入れます。

さて、ケーブルは全て正しく接続されました。ご自分でのコンピュータ組み上げの結果に自信はありますか？ 最後のステップは電源を入れてチェックすることです。ちょっと一息入れて飲み物でもどうぞ。それからコンピュータの電源を入れてどうなるか見てみましょう。



2. BIOS (基本入出力システム)の設定.

電源を入れてまもなく下のような画面が表示され「Press DEL to enter SETUP」というメッセージがスクリーン下部に現れます。ここで **Delete** ボタンを押します。

```

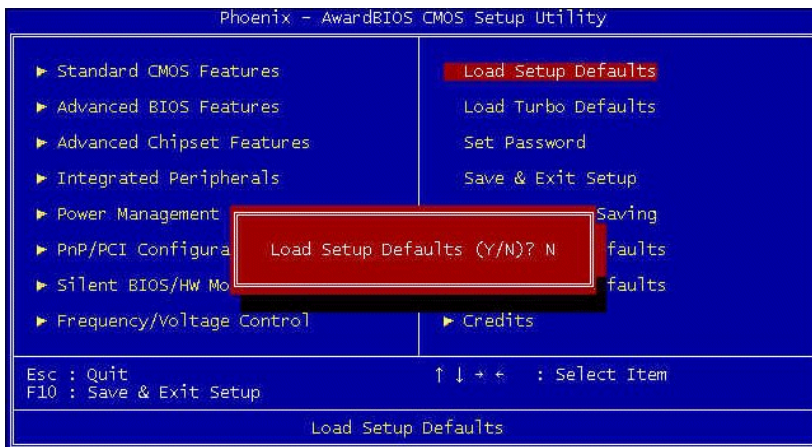
Phoenix-AwardBIOS BIOS v6.00PG, An Energy Star Ally
Copyright (C) 2003, Phoenix Technologies, LTD.
L210 R0.05 July.16.2003 AOpen Inc.

Main Processor : AMD Ahtlon(tm) XP 3000+
Memory Testing : 491520K OK + 32M Shared Memory

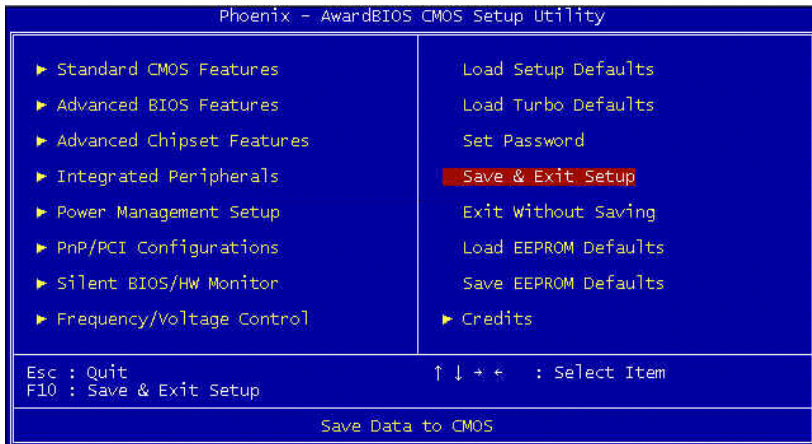
DDR Dual Channel Enabled
Default / Setting      Default / Setting
CPU      100MHz / 166MHz  1.650V / 1.650V
DRAM     333MHz / 333MHz  AUTO / AUTO
AGP       66.67MHz / 66.67MHz  1.53V / 1.53V
PCI       33.33MHz / 33.33MHz  3.30V / 3.30V
Primary Master : ST30641A 3.01
Primary Slave  : None
Secondary Master : None
Secondary Slave : AOpen CD-RW CRW1232PRO 1.2G

Press DEL to enter SETUP, ESC to skip memory test
07/16/2003-nVidia-moore-6A61BABAC-00
XCcube edition™
www.aopen.com.tw
  
```

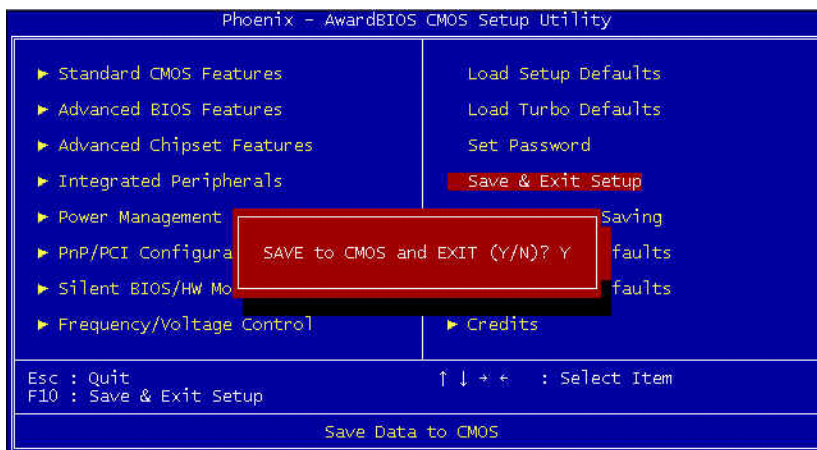

すると、下図の画面がポップアップ表示されてデフォルトの BIOS 設定値がロード可能になります。「Y」を押して確認し **Enter** を押します。



最後にカーソルを「Save & Exit Setup」に合わせて **Enter** を押して、パラメータを保存し BIOS セットアップを終了します。



同時にダイアログボックスに従い「Y」を押し、**Enter**を押して終了します。



これでセットアップは全部完了です。

あとがき

まず始めに、ご自分での DIY コンピュータ組み立ての成功、おめでとうございます。これでご自分の必要に合ったオペレーションシステムおよびアプリケーションソフトウェアがインストールできます。ただしこれらは、コンピュータ DIY の正しい概念とステップごとのコンピュータ組み立てについて理解していただくことを目的とした、当マニュアルの内容を超えています。アプリケーションについては、書店でさまざまな入門書が入手できます。

ご自分のコンピュータをお持ちになるのはご自身にとっての情報時代の幕開けといえます。しかもコンピュータがご自分で組立てたものなら特に感慨深いでしょう。私たちの紹介を通して、コンピュータに必要な主要なコンポーネントならびに組立て時の注意事項をご理解いただけたと思います。ご自身でコンピュータを組み上げることを望む皆さん全てが、幸先のよいスタートを切ることが私たちの心からの願いです。

AOpen XC Cubeについてさらにお知りになりたい方は<http://xc.aopen.com.tw>をご覧ください。

P/N:49.EZ101.062 Doc.no:EZ65EZ18-OL-J0311C

付録

AOpen XC Cube にはユーザー皆様のチョイスにより、UX4SG-1394 (EZ65)または UK79G-1394 (EZ18)というマザーボードが付属しています。個別の詳細については以下の情報をご参照ください。

UX4SG-1394 マザーボード

CPU 電圧およびクロックの設定

フルレンジ調節可能 CPU コア電圧

当マザーボードは CPU VID 機能をサポートしています。CPU コア電圧が 1.1V から 1.85V の範囲で自動検知されます。CPU コア電圧の調節は通常は不要です。

CPU クロックの設定

当マザーボードは CPU ジャンパー不要設計なので、CPU クロックは BIOS セットアップから設定でき、ジャンパースイッチ類は不要です。

Northwood CPU	CPUコア クロック	FSB クロック	システム バス	レシオ
Pentium 4 1.8G	1800MHz	100MHz	400MHz	18x
Pentium 4 2.0G	2000MHz	100MHz	400MHz	20x
Pentium 4 2.2G	2200MHz	100MHz	400MHz	22x
Pentium 4 2.26G	2260MHz	133MHz	533MHz	17x
Pentium 4 2.4G	2400MHz	100MHz	400MHz	24x
Pentium 4 2.4G	2400MHz	133MHz	533MHz	18x
Pentium 4 2.53G	2530MHz	133MHz	533MHz	19x
Pentium 4 2.6G	2600MHz	200MHz	800MHz	13x
Pentium 4 2.66G	2660MHz	133MHz	533MHz	20x
Pentium 4 2.8G	2800MHz	133MHz	533MHz	21x
Pentium 4 2.8G	2800MHz	200MHz	800MHz	14x
Pentium 4 3.0G	3000MHz	200MHz	800MHz	15x
Pentium 4 3.2G	3200MHz	200MHz	800MHz	16x

メモ: CPUクロックは急速に増大しており、当インストールガイドがお手元に届く頃にはより高速のCPUが市場に出回っている可能性があります。この標は参考用としてご覧ください。

メモ: Intel 865G チップセットは Willamette プロセッサをサポートしていません。Northwood プロセッサはクロックレシオ(倍率)を自動検出するので、BIOS にて手動で設定することは出来ません。

DIMM ソケット

UX4SG-1394 には 128 ビットデュアルチャンネル DDR400, DDR333 または DDR266 メモリが最大 2GB 搭載可能です。サポートされるのは非 ECC DDR RAM のみです。適正でない場合はメモリソケットまたは RAM モジュールが故障するおそれがあります。**DDR333 メモリモジュールをインストールして CPU FSB を 800MHz に設定した場合は、メモリクロックは DDR320 にとどまる点にご注意ください。これは Intel の設定によります。**

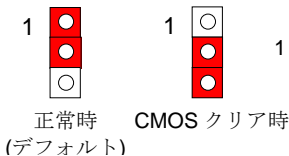
その他の CPU タイプでの制限は下記の表をご覧ください。

項目	DDR266	DDR333	DDR400
CPU FSB 400MHz	V	X	X
CPU FSB 533MHz	V	V	X
CPU FSB 800MHz	V	⊖	V

JP14 による CMOS データのクリア

CMOS をクリアするとシステムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法で CMOS をクリアします。

1. システムをオフにし、AC コードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14 を通常動作時の 1-2 ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差します。

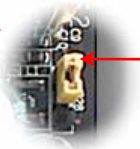
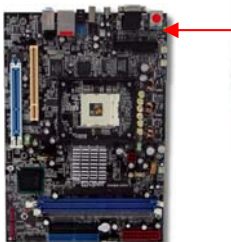


1 番ピン

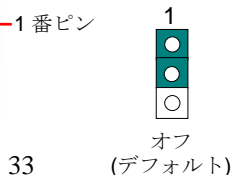


JP28 キーボード/マウスウェイクアップ設定ジャンパー

キーボードやマウスの動きでシステムがサスペンド状態からレジュームする機能は JP28 でオン・オフできます。工場デフォルト設定は“オフ”(1-2 番ピン)ですが、ジャンパー位置を 2-3 番ピンにすることでこの機能がオンになります。



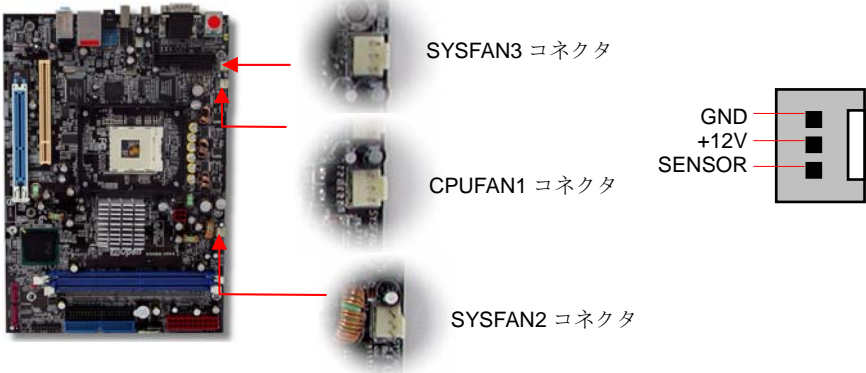
33



オン

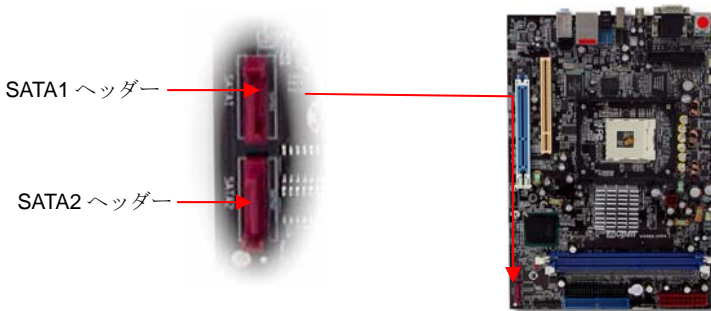
CPU およびシステムファンコネクタ

CPU ファンのケーブルは 3-ピンの CPUFAN1 コネクタに差しします。ケースファンを使用される場合は、ケーブルを SYSFAN2 または SYSFAN3 コネクタに接続します。



シリアル ATA コネクタの接続

シリアル ATA ディスク接続には 7 ピンシリアルケーブルが必要です。シリアル ATA ケーブルの両端をマザーボードとディスクのシリアル ATA ヘッダーに接続します。従来のディスクと同様、電源ケーブルも接続する必要があります。ここでジャンパー設定は不要であることにご注意ください。ディスクをマスタやスレーブにジャンパー設定する必要はありません。シリアル ATA ハードディスクをシリアル ATA ポートにインストールする際は、"Serial ATA 1" ヘッダーに接続されたディスクが自動的に起動用ディスクに設定されます。



UK79G-1394 マザーボード

フルレンジ調節可能 CPU コア電圧

当マザーボードは CPU VID 機能をサポートしています。CPU コア電圧が 1.1V から 1.85V の範囲で自動検知されます。CPU コア電圧の調節は通常は不要です。

CPU クロックの設定

当マザーボードは CPU ジャンパー不要設計なので、CPU クロックは BIOS セットアップから設定でき、ジャンパースイッチ類は不要です。

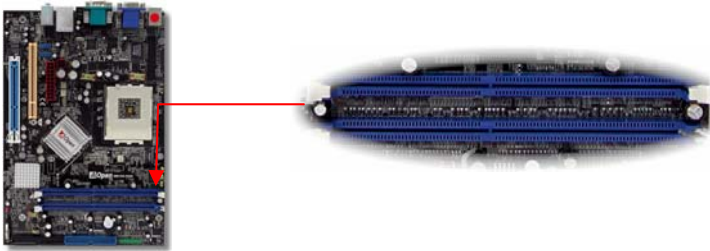
CPU	CPUコア クロック	EV6バス クロック	レシオ
Athlon 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Athlon 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x
Athlon 1.2G	1.2GHz	200MHz	12.0x
Athlon 1.3G	1.3GHz	200MHz	13.0x
Athlon 1G	1GHz	266MHz	7.5x
Athlon 1.13G	1.13GHz	266MHz	8.5x
Athlon 1.2G	1.2GHz	266MHz	9.0x
Athlon 1.33G	1.33GHz	266MHz	10.0x
Athlon 1.4G	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1500+	1.3GHz	266MHz	10.0x
AthlonXP 1600+	1.4GHz	266MHz	10.5x
AthlonXP 1700+	1.46GHz	266MHz	11.0x
AthlonXP 1800+	1.53GHz	266MHz	11.5x
AthlonXP 1900+	1.6GHz	266MHz	12.0x
AthlonXP 2000+	1.667GHz	266MHz	12.5x
AthlonXP 2100+	1.73GHz	266MHz	13x
AthlonXP 2200+	1.80GHz	266MHz	13.5x
AthlonXP 2400+	2.0GHz	266MHz	15x
AthlonXP 2600+	2.13GHz	266MHz	16x
AthlonXP 2700+	2.16GHz	333MHz	13x
AthlonXP 2800+	2.25GHz	333MHz	13.5x
Duron 800	800MHz	200MHz	8.0x
Duron 850	850MHz	200MHz	8.5x
Duron 900	900MHz	200MHz	9.0x
Duron 950	950MHz	200MHz	9.5x
Duron 1G	1GHz	200MHz	10.0x
Duron 1.1G	1.1GHz	200MHz	11.0x

メモ: CPU インストール後、BIOS から CPU FSB 設定が必要です。設定しない場合は CPU はデフォルトの CPU FSB で動作します。

メモ: CPUクロックは急速に増大しており、当インストールガイドがお手元に届く頃にはより高速のCPUが市場に出回っている可能性があります。この標は参考用としてご覧ください。

DIMM ソケット

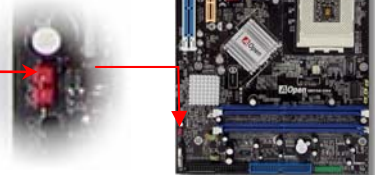
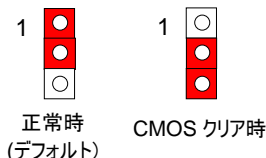
当マザーボードには DDR400/333/266 が最大 2GB（オンボード VGA を有効にした場合はメモリクロックは最大 333MHz）搭載可能です。サポートされるのは非 ECC DDR RAM のみです。適正でない場合はメモリソケットまたは RAM モジュールが故障するおそれがあります。オーバークロック用には BIOS からメモリ電圧を 2.5V から 2.65V に調節できます。



JP14 による CMOS データのクリア

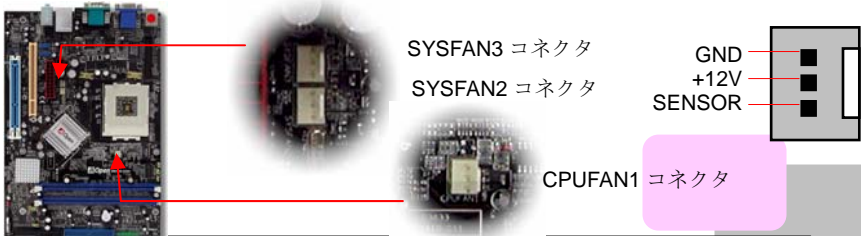
CMOS をクリアするとシステムをデフォルト設定値に戻せます。以下の方法で CMOS をクリアします。

1. システムをオフにし、AC コードを抜きます。
2. コネクタ PWR2 から ATX 電源ケーブルを外します。
3. JP14 の位置を確認し、2-3 番ピンを数秒間ショートさせます。
4. JP14 を通常動作時の 1-2 ピン接続に戻します。
5. ATX 電源ケーブルをコネクタ PWR2 に差しします。



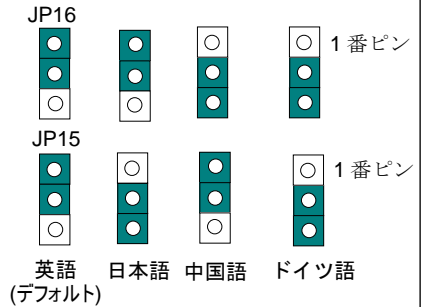
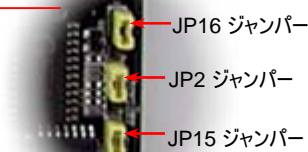
CPU およびシステムファンコネクタ

CPU ファンのケーブルは 3-ピンの CPUFAN1 コネクタに差しします。ケースファンを使用される場合は、ケーブルを SYSFAN2 または SYSFAN3 コネクタに接続します。



JP15/JP16 Dr.ボイス言語設定ジャンパー

Dr. ボイスは、オペレーティングシステムで生じた問題を識別する素晴らしい機能です。この機能は、CPU、メモリモジュール、VGA、PCI アドオンカード、FDD、HDD、キーボード等、コンポーネントやインストールのどの部分に問題があるかを“音声通知”します。Dr.ボイスでは英語、ドイツ語、日本語、中国語の4つの言語バージョンが指定可能です。言語指定はJP15 および JP16 で行います。また、JP2 をセットすることでブザーかスピーカーからの音声を設定できます。



JP2 スピーカー出力ジャンパー

このマザーボードにはブザーとスピーカーからの音声をオフにできる気遣いの機能も備わっています。オペレーティングシステムでエラーが発生した場合でも Dr.Voice 音声による通知をオフにできます。JP2 によりブザーやスピーカーへの出力が設定可能です。

